

チーム医療の推進と診療放射線技師の役割

— 課題解決型高度医療人材養成 —

中澤 靖夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長



平成28年度公益社団法人の事業開始である。新しい事業計画に基づき、国民と共にチーム医療を推進し、質の高い医療を提供していく所存である。

厚生労働省は平成21年8月、チーム医療を推進するため、日本の実情に即した医師と看護師等との協働・連携の在り方等について検討する「チーム医療の推進に関する検討会」を立ち上げ、平成22年3月にその報告書を公開した。これに基づき、医政発0430第1号「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進」を都道府県知事宛てに通知し、各医療スタッフの専門性の活用を求めている。さらにチーム医療推進会議で4年間議論し、各医療スタッフによる業務拡大についてのコンセンサスを得た上で法律改正を行い、各職能団体がチーム医療を推進しているところである。

文部科学省は平成26年度予算として、課題解決型高度医療人材養成プログラムを提案し、「高度な教育力・技術力を有する大学が核となって、わが国が抱える医療現場の諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供できる優れた医師・歯科医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師等を養成するための教育プログラムを実践・展開する取り組みを支援する」とした。これに各大学の研究チームが応募し、26大学が中心となって研究に着手している。研究課題として、横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師の養成、特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師の養成、健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人の養成、卒前・卒後の継続的な教育プログラムの開発と教育指導体制の構築、臨床での教育指導者養成と大学教員・教育指導者の人材交流、地域医療にも貢献できる医療スタッフの養成を掲げている。採用された大学の研究領域を見ると、医療の質管理領域・災害医療領域・臨床医学教育研究領域・難治性疾患診断治療領域・地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成など、多岐にわたっている。

高度医療人の養成においては世界標準である参加型実習を取り入れ、学部教員と臨床教員の人材交流を通じて臨床実習プログラムを充実させていく必要がある。臨床実習プログラム委員会は臨床実習指導教員・学部教員・学生で構成し学生の意見も取り入れ、臨床現場で発生する課題を自ら考え、解決に向けた工程を構築できる人材を養成していく必要がある。

診療放射線技師養成校の臨床実習を実施する実習病院の教員は、本会が認定している臨床実習指導教員、または医療研修推進財団が実施している臨床実習指導者講習会を履修している方が望ましい。現在、全国の診療放射線技師養成機関の7割以上が大学教育である。従って臨床実習指導教員の基礎資格としては修士以上が望ましい。また修士を取得している臨床実習指導教員を指導するには、博士の資格を持った指導者が教育することが望ましい。医療の高度化に伴う課題解決型高度医療人材の養成は喫緊の課題であり、各職能団体においては基礎資格の抜本的な見直しが望まれている。

本会は、各医療スタッフと連携しながら各医療分野におけるチーム医療を推進するとともに、新たなチーム医療の在り方を検証し、業務を分担しつつもお互いに連携・補完し合い、患者の状況に対応した医療を提供すべく努力していく所存である。

(引用文献：文部科学省高等教育局医学教育課。課題解決型高度医療人材養成プログラム概要。2014)